滝田医院　院内報

滝田医院ニュース

022－0001　岩手県大船渡市末崎町字細浦77番地　滝田医院
電話0192(29)3108　内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科

日本内科学会認定総合内科専門医・日本循環器学会認定循環器専門医　滝田　有

第15号　　発行日　2008(平成20)年8月5日

開業満五周年、予約制開始しました。

目次:

開業5周年　1面
予約制を開始。
高血圧の意味　1面
ジェネリックとメタボ　2面
応援医師からのメール　2面
保春院の墓　2面

去る4月1日、当院も開業5周年を迎えました。開業当時は幼かった子供さんたちが大きくなっていくのを見ると5年という年月を実感します。残念ながら院長は病気療養中でしたが、東北大学循環器内科からの厚意で診療を切らさずに続けることが出来ました。

幸いにして6月より院長も復帰して週4日体勢(火、水、木、金曜日)で診療しています。開業医の本分は高度な診療や、救急医療をやることではなく、いつでも誰でも気軽に掛かることが出来て、相談できることだと思います。その意味で無理せず長く続けることが大事です。。

患者さんを必要以上に待たせることなく、効率的に診療を行うために6月より一部に予約制を導入しました。高血圧や糖尿病など慢性疾患で定期的な受診が必要な患者さんは出来れば予約してください。会計のときに事務にて受け付けています。また予約していれば、臨時休診がある場合も他の日に来院するように当院から連絡できますので、無駄足を運ぶこともありません。

勿論、予約なしでは診察できない訳ではありません。飛び込みでも受け付けますが、予約患者さんを優先することがあります。予約なしでも具合の悪い方や用事がある方は、早めに職員にお申し付け下さい。

今後の月曜日と土曜日の診療再開については、院長の体調を見ながら考えていきます。診療体制にご要望のある方は遠慮なくお寄せ下さい。

お盆休みについて

8月12日（火）午前、午後
8月13日（水）午前中のみ
診察します。

他の週は
火曜日、水曜日（午前）、木曜日、金曜日の診察です。
ただし8月7日（木）は臨時休診です。

血圧は悪者か？

血圧が高ければ動脈硬化が早く進む。従って高血圧は心筋梗塞や脳卒中の「危険因子」(高血圧があれば心筋梗塞や脳卒中を起こす危険性が高い)である。そこで降圧薬(血圧を下げる薬)を医者からもらって飲むことは正義である。

この理屈は一見正しい。滝田自身も脳卒中の再発予防の目的で降圧薬を飲んでいる(自分で処方するのではなく、仙台の先輩医師から処方を受けている。)

しかし外来に、公民館や他の医師に行って血圧が馬鹿に高くて降圧薬を飲むことをすすめられたと話す患者さんが来ることがある。人間誰でも緊張したり、興奮したりすると血圧は一時的に上がる。この場合は「高血圧」とは言わない。一時的な血圧上昇が動脈硬化を引き起こすわけがない。

常に高いのか？安静にした状態でも高いのか？確認する必要がある。その意味では家庭血圧を測ってみた方がよい。

当院でも血圧測定器を置くようになった。これは院長不在のとき、火、水曜日に診察日を限り患者さんが集中したためやむを得ない方法であった。機械で測るとどうしても血圧が高くなる人もいる。そのような患者さんは診察前に無理に機械で測定することはない。

申し出てもらえれば診察室内で医師がゆっくりと測って差し上げる。

ジェネリックは新しい薬？、メタボは新しい病気？

ジェネリック医薬品（後発品）は新しい薬ではありません。昔からありました。特に開業医が院内処方していた時代は殆どが「ジェネリック」でした。昔の開業医がなぜ「ジェネリック」を使っていたかというと、先発品に比べてよい薬だからという理由ではありません。卸値が安く、「薬価差益」が生じて、より儲けられるからです。このような「怪しげな薬」を止めにして、「ちゃんとした先発品」をしっかり使ってもらおうとして調剤薬局の制度が確立しました。今は殆どの開業医が調剤薬局による院外処方を行っています。このため、昔に比べて今の開業医は、ジェネリック薬を置かない分、算盤弾きや在庫管理から解放されています。

これは全てお上の主導による「政策」でした。しかし近年の「医療費削減」の錦の御旗のもと、今度は医師はジェネリックを処方させられ、調剤薬局は膨大なジェネリック薬を在庫しておく必要が生じています。

であれば、いっそ昔のままで良かったのではなかろうか？政策をコロコロ変えてしまうのは良くないのではないか？

お上の気まぐれに翻弄されるのは国民であり医療者です。

新しい言葉が新しい概念、意味を持つと錯覚しがちですが、「ジェネリック」は新しい薬ではありません。流行の「メタボ」だって新しい病気が発見されたわけではありません。この春から「特定健診」がメタボ対策に導入されました。しかし本当にメタボ対策が医療費を削減してくれるのかどうか、証明されていません。「医療費が高いから削る」というのは官僚、お上のコンセンサスかもしれませんが、国民のそれには到っていません。

仲の瀬橋から広瀬川を望む。

診療応援の先生からメールを頂戴しました。

院長が病に倒れたとき、東北大学循環器内科の大学院の先生方が仙台から診療応援に来てくださいました。大学院生といっても、既に数年間の臨床経験があるお医者さんです。大学院というのは医者になる勉強ではなく、立派な医学研究をしているのです。今回、その中のお一人、中野誠先生からメールを頂いたので紹介します。

「このたびは私のような微力なもので力不足とは存じましたが、お手伝いをさせていただきました。私の実家も秋田県の田舎町なので、なんだか近所の方々とお会いしているような、懐かしい感じで、楽しく仕事をさせていただきました。あのご多忙な体勢下での滝田先生のキメ細かなご診療は、見習うべきと感じました。カルテやエコー所見もご丁寧に記載されており、応援で突然診療しても、以前までの内容がよくわかりました。大変勉強になりました。ありがとうございます。また、職員の方々も明るく、親切な方々で、患者様もお待たせしているにも関わらず、ご不満をもらされることもなく、気持ちよく仕事をさせていただきました。宜しくお伝えいただけましたら幸いです。今後も、先生ならびに職員の方々のご活躍と、地域の皆さんのご健康を心よりお祈り申し上げます。」

何だか照れくさくなるほど褒めて頂きました。

Special Thanks to Dr.Nakano！

政宗生母・保春院の墓
（仙台市青葉区北山　覚範寺）

診察室から

仙台に滞在し療養生活を送っていました。もともと仙台は私の生まれた土地であり、今回の病気で“死にっぱぐれた”者としては、自分の過去へ回帰する志向が芽生えたのと、人のお墓に興味を持ち、仙台の寺町である北山周辺を散策しました。

光明寺というお寺の裏手に支倉常長の墓があります。自分の幼時にも母に連れられ散歩に来たことがあるようで、古いアルバムには墓石をなでる自分の姿があります。今回再訪して感動したのは、墓前に菊の花が手向けられていたことです。支倉の功績は偉大ですが、仙台でも人気者とはいえません。それでも墓前に頭を垂れる心ある人はいるのです。

上の写真は覚範寺にある、保春院の墓です。「保春院」と聞いてすぐ思い浮かぶ人はいないでしょう。伊達政宗の生母です。かつてのNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」では岩下志麻が演じていました。次男の小次郎を溺愛し、小田原参陣の直前、長男である政宗を毒殺しようとしましたが、事は露見。実家の山形に流されました。しかし最上家の没落後は政宗と和解し、仙台に戻りました。幸福な一生ではなかったし、人に知られているわけでもありません。それでも綺麗な百合の花が見事に手向けられていました。

神社仏閣や路傍の地蔵などへの落書き、いたずらなどが昨今増えています。それでも支倉や保春院の墓を見るとまだまだ日本人も捨てたものではないと思います。花を手向けお墓に手を合わせる姿勢は美しいです。